

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE 広島 2016年版

ザ・パークテラス段原

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

欄に数値またはコメントを記入

配 慮 項 目			評価点		重み係数		内 訳					
■1.「地球温暖化対策」の推進												
1.1 建物の熱負荷抑制												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	1.0	0.25	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	2	外皮性能		
日本住宅性能表示基準「5-1断熱性能等級」等級5確保	5.0	0.75	LR1	エネルギー	1	建物外皮の熱負荷抑制						
小計	4.0	0.14										
1.2 自然エネルギーの利用												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	1.00	LR1	エネルギー	2	自然エネルギー利用						
小計	3.0	0.05										
1.3 設備システムの高効率化												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	5.0	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化						
BEI=0.73												
小計	5.0	0.26										
1.4 設備システムの効率的運用												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用	集合住宅以外の評価	4.1	モニタリング			
	3.0	0.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用	集合住宅以外の評価	4.2	運用管理体制			
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	集合住宅の評価	4.1	モニタリング			
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	集合住宅の評価	4.2	運用管理体制			
小計	3.0	0.10										
1.5 資源・マテリアル対策												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	0.10	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水				
節水型器具・節水型便器の採用	3.0	0.11	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	1	雨水利用システム導入の有無		
リサイクル資材2品目を採用	3.0	0.05	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	2	雑排水等利用システム導入の有無		
	2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減				
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用				
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用				
	4.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				
	2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材				
	4.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み				
小計	3.3	0.31										
1.6 ライフサイクルCO2排出率												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	5.0	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮						
可能な限りCO2の排出量を低減												
小計	5.0	0.13										
1.「地球温暖化対策」の推進の評価												
	4.0	0.68										
■2.「ヒートアイランド対策」の推進												
2.1 温熱環境の向上												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	2.0	0.49	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出						
	3.0	0.24	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上				
	2.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善				
小計	2.2	0.97										
2.2 交通負荷抑制												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制		
適切な駐車・駐輪台数の確保												
小計	4.0	0.03										
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価												
	2.3	0.17										
■3.「長寿命化対策」の推進												
3.1 耐用性の向上												
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.50	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振	1	耐震性(建物のこわれにくさ)		
住宅性能評価基準「劣化対策等級」等級3取得予定	3.0	0.13	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振	2	免震・制震・制振性能		
空調・給排水管の期待耐用年数40年以上を採用	5.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数		
	2.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		
	2.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		
	5.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		
	3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔		
小計	3.2	0.44										
3.2 設備の更新性												
(コメント) ※設計の計画段階に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性		
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給排水管の更新性		
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性		
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性		
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性		
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペースの確保		
小計	3.0	0.56										
3.「長寿命化対策」の推進の評価												
	3.1	0.14										
■重点項目の総平均(上記3項目)			3.6									